

SPAC 秋→春のシーズン 2019-2020

期間：2019年10月11日（金）～2020年3月11日（水）

会場：静岡芸術劇場

SPAC 秋→春のシーズン広報に関するお問い合わせ

SPAC-静岡県舞台芸術センター制作部 広報担当

内田稔子 (uchida@spac.or.jp)・坂本彩子 (sakamoto@spac.or.jp)

計見葵 (keimi@spac.or.jp)・西村藍 (nishimura@spac.or.jp)

TEL：054-208-4008（舞台芸術公園）

目 次

P 1 SPAC 秋→春のシーズン 2019-2020 概要

P 2 - 5 SPAC 秋→春のシーズン 2019-2020 上演ラインナップ詳細

P 6 - 8 登壇者プロフィール

P 9 チケット

P 1 0 アクセス・お問い合わせ

秋→春のシーズン 2019-2020 概要

SPAC 秋→春のシーズンとは

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、毎年10月から3月にかけて「秋→春のシーズン」と題し、宮城聡と国内外の注目の演出家たちが、名作の数々を静岡芸術劇場で連続上演します。週末の一般公演とともに、平日は県内の中高生を対象とした招待公演（中高生鑑賞事業公演「SPACeSHIP（スペースシップ）げきとも！」）も行っており、2018年度は約13,000人の生徒が観劇しました。

SPACのレギュラーシーズン（秋→春のシーズン）では、「時の淘汰に耐える古典」を「洋の東西、時代の古今」にわたりあまねく紹介してゆきます。通ってくださるうちに「演劇の世界地図、演劇の世界年表」が見えてきます。そして今はまだ案外知られていないけれどやがては「古典」と讃えられるようになるだろう隠れた傑作も発掘してゆくつもりです。日本中で、ここでしか観られません！

——宮城聡（SPAC 芸術総監督）

秋→春のシーズン 2019-2020 上演ラインナップ

★秋→春のシーズンで上演される全5作品をご紹介します。詳細は次ページ以降をご覧ください。

10月 #1 寿歌

ほぎうた

一般公演・・・10/12(土)・13(日)・19(土)・20(日)・26(土)

演出：宮城聡 作：北村想 美術：カミイケタクヤ

11月 #2 ペール・ギュントたち ～わくらばの夢～

一般公演・・・11/9(土)・10(日)・16(土)・17(日)

演出：ユディ・タジュディン 原作：ヘンリック・イブセン

12月 #3 RITA & RICO（リタとリコ）～『セチュアンの善人』より～

一般公演・・・12/14(土)・15(日)・21(土)・22(日)

構成・演出・台本：渡辺敬彦 原案：ベルトルト・ブレヒト

2020年1-2月 #4 グリム童話 ～少女と悪魔と風車小屋～

一般公演・・・2020年1/18(土)・19(日)・25(土)・2/1(土)・2(日)

演出：宮城聡 作：オリヴィエ・ピィ 原作：グリム兄弟 訳：西尾祥子、横山義志 音楽：棚川寛子

2020年2-3月 #5 メナム河の日本人

一般公演・・・2020年2/15(土)・16(日)・23(日)・24(月祝)・29(土)・3/1(日)・7(土)

演出：今井朋彦 作：遠藤周作

秋→春のシーズン 2019-2020 **上演ラインナップ詳細** ※会場は、出張公演を除き静岡芸術劇場

#1 ^{ほぎうた}『**寿歌**』



©HIRAO Masashi

『寿歌』(2018年) 舞台芸術公園 野外劇場「有度」

1979年に劇作家・北村想が発表し、80年代の小劇場演劇の金字塔と称される喜劇。物語の舞台は、核戦争後のある関西の地方都市。廃墟の上を核ミサイルが横切るなか、旅芸人ゲサクと少女キョウコ、そして謎の男ヤスオが、チンドンの歌と踊り、漫才を繰り広げながら明るくさすらう。昨春、宮城聡の演出で舞台芸術公園・野外劇場「有度」を満席にした快作が、シーズン開幕作として静岡芸術劇場に登場する。

演出：宮城聡 作：北村想 美術：カミイケタクヤ

出演：奥野晃士、春日井一平、たきいみき [五十音順]

公演日 一般公演…10/12(土)・13(日)・19(土)・20(日)・26(土) 各日 14:00

中高生鑑賞事業公演…10/11(金)～25(金) [全9公演]

出張公演(中高生鑑賞事業)…10/30(水)・31(木)・11/7(木) 浜松市天竜区壬生ホール [全3公演]



©新良大

演出家プロフィール

宮城 聡 (みやぎ・さとし)

1959年東京生まれ。東京大学で演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月 SPAC 芸術総監督に就任。14年アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。平成 29 年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

愛知県芸術劇場・SPAC 共同企画『寿歌』 上演歴

- ◎愛知県・名古屋市公演・・・2018年3/24(土)・25(日)・26(月) 愛知県芸術劇場 小ホール
- ◎静岡県・静岡市公演・・・2018年4/28(土)・30(月祝) 舞台芸術公園 野外劇場「有度」
- ◎熊本県・長洲町公演・・・2018年5/18(金)・19(土) ながす未来館 文化ホール
- ◎福岡県・北九州市公演・・・2018年5/26(土)・27(日) 北九州芸術劇場 小劇場
- ◎茨城県・ひたちなか市公演・・・2018年6/8(金)
- ◎愛知県・知立市公演・・・一般公演：6/16(土) / 学校招待公演：2018年6/13(水)・14(木)・15(金)
パティオ池鯉鮒(知立市文化会館) 花しょうぶホール
- ◎愛知県・小牧市公演・・・一般公演：6/23(土) / 学校招待公演：2018年6/21(木)・22(金)
小牧市市民会館

#2 『ペール・ギュントたち ～わくらばの夢～』 **新作**



インドネシア・フローレス島でのワークショップの様子

インドネシア屈指の芸術家集団「テアトル・ガラシ」を率いるユディ・タジュディンが、インドネシア・日本・ベトナム・スリランカのアーティストたちとともに、イブセンの『ペール・ギュント』を読み解く。旅を続けるペール・ギュントの姿に、自由を求めながらも、恐れや不安と葛藤する現代アジアを重ねる。インドネシア・フローレス島 (6/23-7/7) や東京 (8/23-9/6) での創作ワークショップなどを経て、11月、静岡で初演の幕が上がる。

演出：ユディ・タジュディン 原作：ヘンリック・イブセン

共同創作：

ウゴラン・プラサド (ドラマトゥルク)、**川口隆夫** (パフォーマー/ダンサー/振付家)

ヴェヌーリ・ベレラ (振付家/ダンサー)、**美加理** (俳優)、**ムハマッド・ヌル・コマルディン** (俳優/ダンサー)

森永泰弘 (サウンドアーティスト/作曲家)、**グエン・マン・フン** (ヴィジュアル・アーティスト)

アルシタ・イスワルダニ (俳優/パフォーマー)、**グナワン・マルヤント** (俳優/作家)

**出演：共同創作アーティスト および SPAC/大内米治、佐藤ゆず、館野百代、牧山祐大、宮城嶋遙加
 若宮羊市**

公演日 一般公演…11/9(土)・10(日)・16(土)・17(日) 各日 14:00
 中高生鑑賞事業公演…11/5(木)～20(金) [全8公演]



演出家プロフィール

ユディ・タジュディン Yudi Ahmad Tajudin

演出家。ジョグジャカルタを拠点とするインドネシア屈指の芸術家集団、テアトル・ガラシ/ガラシ・パフォーマンス研究所 (2013年蘭プリンス・クラウド受賞) の創立者の一人で芸術監督。2011年から12年にかけて ACC (アジア・カルチュラル・カウンシル) のフェロシップとしてニューヨークにて学び、インドネシア文化省 Art Award 2014 を受賞。演劇、ダンス、ビジュアル・アート、音楽など分野を横断したプロジェクトを手掛け、インドネシアの演劇シーンを牽引する演出家として知られる。その作品は国際的に上演されており、SPACをはじめ北村明子など日本のアーティストとのコラボレーションも多数行なう。SPAC「Shizuoka 春の芸術祭 2010」でテアトル・ガラシの代表作『南十字☆路』を上演、2013年・16年には SPAC との共同制作による『サーカス物語』を演出した。

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

共同制作：テアトル・ガラシ/ガラシ・パフォーマンス研究所

助成：(一財) 地域創造

<Multitude of Peer Gynts プロジェクトに対し>

助成：国際交流基金アジアセンター、インドネシア創造経済庁、(公財) セゾン文化財団

協力：東フローレス市役所



**TEATER GARASI /
 GARASI PERFORMANCE INSTITUTE**



THE SAISON FOUNDATION



#3 『RITA&RICO(リタとリコ)～「セチュアンの善人」より～』 新作



©NAKAO Eiji

渡辺敬彦演出『青森県のせむし男』(2016年)

善良な人間を探すためセチュアンの街に降り立った三人の神。彼らに部屋を世話したのは、貧民街の女シェン・テだった。神から与えられた金を元手に、彼女は商売を始めるが…。残酷と貪欲の仮面なしには生きられない現代社会を描くブレヒトの寓話劇『セチュアンの善人』。これを、SPACの俳優として高い評価を得る一方、近年は自主企画の演出も行う渡辺敬彦が、主人公シェン・テ/シュイ・タを「利他主義」と「利己主義」の象徴と捉え、大胆にリライトする。

構成・演出・台本：渡辺敬彦 原案：ベルトルト・ブレヒト 台本協力：守山真利恵
 出演：山本実幸、泉陽二、大内智美、木内琴子、貴島豪、小長谷勝彦、三島景太、吉植荘一郎

公演日 一般公演…12/14(土)・15(日)・21(土)・22(日) 各日 14:00
 中高生鑑賞事業公演…12/13(金)～20(金) [全4公演]
 出張公演(中高生鑑賞事業)…12/5(水) 掛川市文化会館シオーネ [全1公演]



演出家プロフィール

渡辺 敬彦 (わたなべ・たかひこ)

「残酷で美しく、悲劇でもあり喜劇でもある舞台を創りたい」

様々な役を自在に演じ分ける個性派俳優。これまで数多くの舞台作品に出演。演劇のみならずダンス、舞踏、映画、テレビと活動の幅は広い。2010年よりSPACに参加し『マハーバーラタ』『真夏の夜の夢』『アンティゴネ』等出演、16年『青森県のせむし男』を演出した。09年利賀演劇人コンクール優秀演劇人賞受賞。

#4 『グリム童話 ～少女と悪魔と風車小屋～』



©K. Miura

「風車小屋の裏にあるものをくれるなら金持ちにしてやろう」森で出会った見知らぬ男の提案を受け入れた粉屋は、瞬く間に金持ちに。だが、風車小屋の裏にいたのは粉屋の一人娘。男は悪魔だった…。グリム童話を、フランスの劇作家オリヴィエ・ピイが戯曲化し、宮城聡が演出。珠玉の言葉、俳優による歌と生演奏、白い折り紙のような美しい舞台美術・衣裳に息を呑む。奇跡のハッピーエンドは、現代の私たちの心を大きく揺さぶる。

演出：宮城聡 作：オリヴィエ・ピイ 原作：グリム兄弟 訳：西尾祥子、横山義志 音楽：棚川寛子
 出演：池田真紀子、大内米治、貴島豪、鈴木真理子、大道無門優也、武石守正、永井健二、宮城嶋遙加
 森山冬子、若宮羊市 [五十音順]

公演日 一般公演…2020年1/18(土)・19(日)・25(土)・2/1(土)・2(日) 各日 14:00
 中高生鑑賞事業公演…2020年1/14(火)～30(木) [全13公演]
 出張公演(中高生鑑賞事業)…2020年2/13(木)・14(金) 下田市民文化会館 [全2公演]

#5 『メナム河の日本人』 **新作**



今井朋彦演出『わが町』（2013年）

17世紀初頭、日本を離れてアユタヤ王朝（タイ）にわたり、日本人傭兵部隊の隊長や貿易商として活躍しながら理想の王国を築こうとした山田長政。静岡出身でもある長政の波乱万丈の生涯のなかに、作家・遠藤周作は〈日本人〉の特質を見出し、歴史活劇として鮮やかに描いた。演出を手掛けるのは、俳優としても活躍する「文学座」の今井朋彦。2010年・13年 SPAC『わが町』で深い感動を呼んだ今井の手で、隠れた名作がよみがえる。

演出：今井朋彦 作：遠藤周作

**出演：阿部一徳、大内智美、大高浩一、奥野晃士、加藤幸夫、小長谷勝彦、佐藤ゆず、たきいみき
 林大樹、布施安寿香、三島景太、山本実幸、吉植莊一郎、渡辺敬彦** [五十音順]

公演日 一般公演…2020年2/15(土)・16(日)・23(日)・24(月祝)・29(土)・3/1(日)・7(土) 各日 14:00
 中高生鑑賞事業公演…2020年2/18(火)～3/11(水) [全12公演]



演出家プロフィール

今井 朋彦 (いまい・ともひこ)

文学座所属。俳優として劇団内外で数多くの舞台に出演するほか、映像の分野でも精力的に活動中。また演出家としても『星の王子さま』（寺山修司作）、『パンドラの鐘』（野田秀樹作）、『Noises Off』（マイケル・フレイン作）、『セチュアンの善人』（プレヒト作）などを手掛けている。SPACでは『わが町』以来、2作目の演出となる。

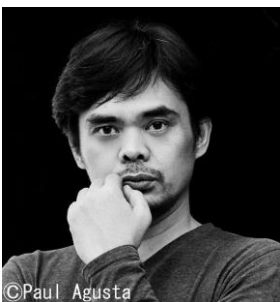
登壇者プロフィール



カミイケタクヤ

#1『寿歌』美術

「移動」の時間や景色や言葉などの中より遭遇、経過、喪失などを模索。主には美術(インスタレーション、平面作品など)と舞台美術(演劇、ダンス、サーカスなど)を制作。近年では木ノ下歌舞伎、東京デスロック、サンプル、Nibroll、山下残などの新進気鋭のカンパニー作品の舞台美術を数多く手掛け、注目を集めている。その他に WS、ライブパフォーマンス、ダンス作品の演出、小屋製作など幅広く活動をしている。



ユディ・タジュディン Yudi Ahmad Tajudin

#2『ペール・ギュントたち ～わくらばの夢～』演出

[プロフィールは P3 掲載]



川口 隆夫 (かわぐち・たかお)

#2『ペール・ギュントたち ～わくらばの夢～』共同創作・出演

学生の頃より演劇やダンス、パフォーマンスに触れ、またパントマイムをベースにした動きのテクニク「ミーム」を学ぶ。1年間のスペイン留学ののち、1990年よりダンスを始め、翌年から吉福敦子らとともに ATA Dance を主宰しコンポラリーダンス作品を発表。96年からは京都を拠点にしたアーティスト集団「ダムタイプ」に参加。『OR』、『メモランダム』、『ヴォヤージュ』に出演した。2000年以降はソロを中心に、演劇・ダンス・映像・美術をまたぎ、舞台パフォーマンスの幅広い可能性を探求、他ジャンルのアーティストたち(伊東篤弘、山川冬樹、真鍋大度、藤本隆行、ほか)とのコラボレーションも多い。08年より「自分について語る」をテーマに『a perfect life』をシリーズ展開。その Vol.06「沖縄から東京へ」で第5回恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2013)に参加した。近年は舞踏に関するパフォーマンス作品で、土方巽著『病める舞い姫』のテキストをインスピレーションにしたデュオダンス作品『ザ・シック・ダンサー』(12年初演、14年に東北ツアー、18年に東京で再演し、19年後半にはヨーロッパツアーを予定)、そして『大野一雄について』(初演「ダンスがみたい！」d-倉庫、2013)を発表。後者は16年秋の公演でニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、18年秋にはパリ市立劇場(フェスティバル・ド・オートヌ)にて上演。これまでに35都市、通算70回を巡演し、現在も世界各地をツアーしている。最新作は1960年代アメリカの公衆トイレでの男性間の性行為に関する社会学研究のアーカイブ資料を元にしたパフォーマンス『TOUCH OF THE OTHER - 他者の手』(2015 ロサンゼルス、2016 東京)。その他、1996~99年 東京国際レズビアン&ゲイ映画祭(現・レインボーリール東京)のディレクターを務めた。02年英国映像作家デレク・ジャーマン著『クロマ』を共同翻訳(出版 アップリンク)。14年より女子美術大学非常勤講師(アーツプロデュース表現領域)。



ヴェヌーリ・ペレラ Venuri PERERA

#2『パール・ギェントたち ～わくらばの夢～』共同創作・出演

スリランカの都市コロンボを拠点とする振付家、パフォーマー、教育者。スリランカの伝統舞踊キャンディアンダンスを学んだ後、13年間にわたり Chitrasena Dance Company のメンバーとして活躍。その後、ロンドンのラバン・センターに留学し、2008年にダンス準修士 (Dance in the Community) 取得。同校にてシモーヌ・ミシェル振付賞を受賞。09年以降、自身のソロ作品はヨーロッパ、アジア各地のフェスティバルに招聘されている。また、スリランカ国内外でのコラボレーションも多く、現在はダンサーで振付家の手塚夏子との「フローティング・ボトル・プロジェクト」(セゾン文化財団と KYOTO EXPERIMENT との共同制作) に参加している。ダンサー、振付家として活躍する傍ら、ヴィジュアル・パフォーミングアーツ大学の客員講師、スリランカ芸術評議会のダンス委員でもあり、コロンボ・ダンス・プラットフォーム 2016 と、「世界の女性フェスティバル」スリランカ・エディションではキュレーターを務めた。



森永 泰弘 (もりなが・やすひろ)

#2『パール・ギェントたち ～わくらばの夢～』共同創作

東京藝術大学大学院を経て渡仏。帰国後は芸術・音楽人類学的な視座から世界各地をフィールドワークし、楽器や歌の初源、儀礼や祭祀のサウンドスケープ、都市や集落の環境音をフィールドレコーディングして音源や作品を発表している。また映画・舞台芸術・展示作品等のサウンドデザインや音楽ディレクション、そしてフィールドレコーディングの音源出版など多岐に渡る活動を行っており、これまで世界三大映画祭(カンヌ国際映画祭、ベネチア国際映画祭、ベルリン国際映画祭)で自身が関わった作品等が発表されている他、ベネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ポンピドゥー・センター(フランス)、イタリア国立音響/音楽センター等のアートやデザインの分野でも作品が発表されている。www.the-concrete.org



渡辺 敬彦 (わたなべ・たかひこ)

#3『RITA&RICO (リタとリコ) ～「セチュアンの善人」より～』演出

[プロフィールは P4 掲載]



©加藤孝

阿部 一徳 (あべ・かずのり)

#5『メナム河の日本人』出演

東京都出身。大学時に劇団綺崎に参加。1990年宮城聡の呼びかけによりク・ナウカの旗揚げに参加し、以後ク・ナウカの国内外すべての公演に出演。他劇団への客演も多数。

98年にスタートした一人芝居シリーズも好評を博している。2009年よりSPACに参加、肉体を駆使した発声術・台詞術は国内にとどまらず、海外各国の演劇フェスティバルでも高い評価を得ている。SPACでの主な出演作品に『王女メディア』『マハーバーラタ』『メフィストと呼ばれた男』『アンティゴネ』(演出：宮城聡)、『ガラスの動物園』(演出：ダニエル・ジャンヌトー)、『令嬢ジュリー』(演出：フレデリック・フィスバック)、『病は気から』(演出：ノゾエ征爾)など。



©加藤孝

布施 安寿香 (ふせ・あすか)

#5『メナム河の日本人』出演

埼玉県出身。2002年ク・ナウカ入団。06年よりSPACに所属。主な出演作に『夜叉ヶ池』シェイクスピアの『冬物語』『アンティゴネ』(演出：宮城聡)、『ガラスの動物園』『盲点たち』(演出：ダニエル・ジャンヌトー)、『室内』(演出：クロード・レジ)等があり、その清楚な佇まいで『ハムレット』(演出：宮城聡)のオフィーリアや、『サーカス物語』(演出：ユディ・タジュディン)の少女エリなど、物語のヒロインを演じることが多い。



©新良太

宮城 聡 (みやぎ・さとし)

SPAC 芸術総監督

#1『寿歌』#4『グリム童話 ～少女と悪魔と風車小屋～』演出

[プロフィールはP2掲載]

チケット

発売日

#1『寿歌』 **好評販売中!**

#2『パール・ギュントたち ～わくらばの夢～』

#3『RITA&RICO (リタとリコ) ～「セチュアンの善人」より～』

SPAC の会 会員先行予約開始：9/21(土) 10:00

一般前売開始：9/28(土) 10:00

#4『グリム童話 ～少女と悪魔と風車小屋～』

#5『メナム河の日本人』

SPAC の会 会員先行予約開始：11/16(土) 10:00

一般前売開始：11/23(土) 10:00

購入方法

SPAC チケットセンター

- 電話予約 TEL：**054-202-3399** (10:00～18:00・休業日を除く)
- 窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター (10:00～18:00・休業日を除く)
- ウェブ予約 <https://spac.or.jp/ticket>

セブン-イレブンでの販売 店内のマルチコピー機をご利用ください。

[当日券] 残席がある場合のみ、開演 1 時間前より各公演会場受付にて販売

※当日券販売の有無を、公演当日に必ずお電話もしくは Twitter (@_SPAC_) でお確かめください。

チケット料金

※全てのチケット代金は税込価格です。 ※各種割引の併用はできません。

※乳幼児を連れてのご入場はご遠慮ください。

- **一般：4,200 円**
- ペア割引：3,700 円 (2 名様で 1 枚につき)
- グループ割引：3,300 円 (3 名様以上で 1 枚につき) ※10 名様以上の場合は電話・窓口にてお取り扱い
- ゆうゆう割引：3,500 円 (満 60 歳以上の方) ※公演当日、受付にて身分証をご提示ください。
- 学割：[大学生・専門学校生] 2,000 円
 [高校生以下] 1,000 円 ※公演当日、受付にて学生証をご提示ください。
- 障がい者割引：2,900 円 [障害者手帳をお持ちの方]
 ※公演当日、受付にて障害者手帳をご提示ください。 ※付添の方 (1 名様) は無料 ※電話・窓口のみのお取り扱い
- 親子室：2,900 円 (大人 1 名様につき)
 座席の必要なお子様は高校生以下料金 1,000 円/座席不要のお子様は無料
 ※先着 3 名様、電話・窓口のみでのお取り扱い。
 ※ボランティアによる無料託児サービスのある公演日もございます。 [対象：2 歳以上の未就学のお子様]

アクセス

静岡芸術劇場 JR「東静岡駅」南口から徒歩5分。

電車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約3分。

※1時間に5～6本、10～15分間隔で運行しています。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。

※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

東京・静岡県東部（修善寺・三島・沼津）・浜松からの観劇バスを運行します！

「秋→春のシーズン」では、静岡芸術劇場までの往復バスを運行いたします。運行スケジュール、料金、申し込み方法は、SPAC公式サイトでご確認ください。

お問い合わせ

SPAC チケットセンター TEL：**054-202-3399**（10:00～18:00・休業日を除く）

★SPAC 秋→春のシーズンの最新情報は、公式サイトにて随時お知らせいたします。

SPAC 公式サイト <https://spac.or.jp>

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1

TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場）／ FAX：054-203-5732 ／ E-mail：mail@spac.or.jp

【報道関係お問い合わせ先】

「SPAC 秋→春のシーズン 2019-2020」に関するお問い合わせ、取材のご希望、上演作品の画像等がご入用の場合は、下記までご連絡ください。また、情報を掲載いただける際にも、下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

SPAC-静岡県舞台芸術センター制作部

広報担当 内田稔子 (uchida@spac.or.jp)・坂本彩子 (sakamoto@spac.or.jp)

計見葵 (keimi@spac.or.jp)・西村藍 (nishimura@spac.or.jp)

TEL：054-208-4008（舞台芸術公園）

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会

ふじのくに芸術祭共催事業

